

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546 FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志



議長一人だけが手を按く仕方で、正教師按手式執行

08年度 教区総会報告

未受洗者配餐問題が議論の焦点

2

中部・京都・奥羽・西東京・兵庫

被災教会再建支援に取組み

中部

五月二〇日(火)～二一日(水)、第58回中部教区定期総会が行われた。開会礼拝では「荒野で聴く言葉」と題して説教が行われ、聖餐式が執行された。

問題意識を持って議論されたのは、二〇〇七年七月に北村慈郎常議員が発題した内容について、常議員会宛に出された「要望書」について、愛知教会八郎伝道師の不祥事について、そして能登半島地震で被災した教会・施設の再建についてだった。

「要望書」に関しては「懇談が教団新報に載った経緯」から「聖餐をどう考えるか」まで幅広い意見が出された。「それぞれの教会の伝統や背景を考慮すべき」「教憲教規で切り捨ててはならない」等、未受洗者陪餐を否定しない立場の発言が出る一方で、聖餐に対する見解は各個教会で決議するのではなく、教区総会などで決議すべき「牧師が未受洗者陪餐を行う時、信徒の意見が切り捨てられる」等の意見も出た。

高橋潤議長からは「退任勧告は命令ではないこと」「同じテーブルで話し合うために、一度同じ土台に戻ることが必要」との見解が示された。

同様の質疑は内藤留幸教団問安使により山北宣久教団総会議長の挨拶が読み上げられた時にも行われた。賛成教団に関しては「当該牧師が悔い改めの訓練を受ける機会を持つ事が必要」との報告がなされた。

能登半島地震被災教会の現状について、七尾教会牧師館改築、七尾幼稚園の再建が進む一方、羽津教会は富来伝道所の解体を終え、羽津白百合幼稚園の再建計画を慎重に進めている。輪島教会は余震によって会堂のひび割れが拡大した観がある事、魚津教会からは再建感謝の報告がなされた。

二日目は議事再開に先立ち、総会で承認された三名の教師が准允を受けた。また教団の機構検討設置委員会より求められている教団総会議員数削減をめぐる二日目は議事再開に先立ち、総会で承認された三名の教師が准允を受けた。また教団の機構検討設置委員会より求められている教団総会議員数削減をめぐる

二日目朝、三人の准允と七人の按手札が執行された。後、教団総会議員選挙の件が再開され「選出された人は行く権利も行かない権利もある」ことをふまえて選挙に入った。

常置委員会提案の教区改革にむけた議案のうち「京都教区教会謝儀支援規則」と関連した「教職謝儀補助会計」処理については承認され、新たな支援体制が整備された。「京都教区改革検討委員会設置については、時期尚早との意見が相次ぎ、継続となった。

教団常議員会による「教師退任勧告」問題への対応に関する件では「手続き論で行くならそれに集中するべき」との意見が続き、協議会での議論の成果もふま

教団総会議員選出是非で議論

京都

第72回京都教区定期総会は、五月五日から二日間、京都丸太町教会で開催され、正議員一五五人中、開会時一六人が出席した。組織会の後、教団問安使拒否ならびに教団議長と総幹事報告の取り扱いにふれてから議事に入るべきとの意見が出され、望月修治議長は教区総会議長報告の一部を朗読し、教師退任勧告について「京都教区常置委員会は教団の一方的で横暴な執行体制に対する抗議の意志として今回の教区総会でも、教団問安使の受け入れを拒否しました。この問題に対する京都教区の

今後の対応については、まず教区総会で「抗議」と「見解」を決議し教団議長および常議員会宛に教区の立場を明らかにしたいと考えます」と述べ、教団議長の挨拶と総幹事報告については「回収するつもりはない」と述べた。

昼食後の教区総会議長報告に関する件で、「一方的立場の抗議に反対。二〇〇二年の教区総会での教区宣言基本方針を巡る協議会では、教団信仰告白による一致は前提であるとの見解があったはずだが、記録が残されていない。少数意見を切り捨てないよう要望す

る」「多様性とは何か。教団は信仰告白と教憲・教規によって一致しているはずではないか」との意見が続く。望月議長は「聖餐理解についての一定の見解を出しているのではない。多数決で教師資格を奪うような行為への抗議である」と述べた。続いて「教規準則の制定経過は不明であり、準則違反を根拠にして勧告を行うことが教規違反である」「手続き論が主張されているが、聖餐の中身が問題にされていないことに危惧を覚える」などの議論が続いた。

教団総会議員の選挙に関する件では、現在の教団状況との関わりで常置委員会に選挙することを提案するに至った経緯が述べられ、これに対し「選ぶべきではない」「教団執行部に結果的に教団総会の正当性を与えてしまふ」などの意見がある一方で「議員を送り、一九六九年の機構改正を否定するかのよう偏向と変質を食い止める勢力の存在を知らしめ問題提起をするべきである」「教団全体を考へ異論を主張し続けるべき」との意見が続いたが、結論を得るに至らず、二日目に継続となった。

一日目夜の協議会は望月議長が、教師退任勧告を巡る経過を資料で振り返りながら発題し「多様性」か「一元化」か、どちらが豊かにされるかの問題。「各々の歴史的特質を尊重しつつ」との教憲前文を捨象してはならない。」と述べ、熱心な協議が続いた。

二日目朝、三人の准允と七人の按手札が執行された。後、教団総会議員選挙の件が再開され「選出された人は行く権利も行かない権利もある」ことをふまえて選挙に入った。

常置委員会提案の教区改革にむけた議案のうち「京都教区教会謝儀支援規則」と関連した「教職謝儀補助会計」処理については承認され、新たな支援体制が整備された。「京都教区改革検討委員会設置については、時期尚早との意見が相次ぎ、継続となった。

教団常議員会による「教師退任勧告」問題への対応に関する件では「手続き論で行くならそれに集中するべき」との意見が続き、協議会での議論の成果もふま



名古屋中央教会を会場に、開会時正議員 178 名が出席

歳入歳出予算案に関する件「秋季按手札式執行に関する件」

教団総会議員選挙結果

【教職】高橋潤(中京、横山良樹(平田、田口博之(名古屋桜山、井ノ川勝(山田、加藤幹夫(阿漕、小宮山剛(富山二番町、勇文人(若草、小堀康彦(富山鹿島町、中島聡(如鷲、町田久子(幸町、釜士達雄(七尾)

【信徒】本弘禮子(津、大杉弘(若草、中村友之(各務原、阿部美男(名古屋北、小森純江(四日市、上村清(富山二番町、矢部勉(輪島、衣川正氣(金沢南部、永井勝(富山鹿島町、西尾勝雄(愛北、木村繁子(中京)

(辻順子報)

えて修正の後、「抗議」と「見解」が承認された。その他建議案「日本基督教団三里塚教会」に連帯し京都教区が国家と教会の問題に取り組みが採択され、決議された。

教団総会議員選挙結果【教職】望月修治(同志社、井上勇一(洛南、大澤宣(紫野、竹ヶ原正輝(丹波新生、美藤章(近江八幡、横田明典(近江金田、谷村徳幸(水口、入治彦(京都、山田真理(上島羽)

【信徒】志賀勉(紫野、奥野力(膳所、造田弘司(水口、谷口ひとみ(八幡ぶどうの木、原田潔(大津東、押本年真(丹波新生、矢島哲夫(醍醐、菅恒敏(京都、中尾義人(丹陽)

(林牧人報)



教団機構改革に教区独自案

奥羽

第63回奥羽教区定期総会が、五月二日～三日、奥羽キリスト教センターにて開催された。開会時には正議員が一二名中一〇二名出席した。

開会礼拝、総会成立に必要な諸手続き後、直ちに「准允受領願い」が取り扱われ、これを満場一致で承認、准允式を執行。四名の教師が新たに立てられた。



4名の教師が立てられ、奥羽の地での働きに

議に基づき、教区内教会・伝道所から約一五五万円の献金が献げられたこと、教区会計から不足分を補填し目標額(二百万円)を満たしたことを報告した。退任勧告決議について「奥羽教

区は未受洗者への配餐を容認することはない」としつつ、しかし当該教区を越えた手続きの不備、決議が上告手続きを閉ざしてしまうこと、また福音主義教会連

合按手執行問題等、決議に疑義を感ずるとした。

法定議案以外で審議された主なことは次のとおり。

常置委員会提案「教団総会議員数に関する教規変更」は、

教団常議員会の下に設置された教団機構検討特設委員会が教団議員定数改訂案を答申したが、これに

教区対案を提出するもの。常置委員会は改訂試算表等により教区案を検討。教区案では、各教区定数配分を

現行(教師・信徒各三名)のまま、また推薦議員を廃止しないことを提案する。

答申案は、定数配分教師・信徒各一名減、推薦議員廃止を提案している。ただし

教区案は、各教区選出議員総数、現行三七〇名を三百名とすることは答申案とおりとし、結果、教勢配分を減する案となっている。原

案が可決され、教規第一条のみの変更案が教団総会に提出される。

常置委員会提案「大館教会と花輪教会の合併」は、

両教会の合併と花輪教会の解散の承認。〇七年より両教会の合併について検討が具体化し、花輪教会が大館

教会に吸収合併後、解散することが両教会で決議された。合併申請を議員の起立をもって承認した。花輪教会は秋田県北部伝道で一九五二年に伝道所として開設された。

議事は、予定時刻まで一時間半以上残してすべてを終了。残された時間を教団問安使との質疑、討論に用いた。議事の中でも小林眞教団副議長には問安使としての挨拶の時間が設けられ

たが、なお残された時間も有効に貴重に用いられた。教会が直接、教団の課題を聞き、教会、教区の現状を

西東京教区総会が、五月二五～二六日、阿佐ヶ谷教会を会場に開会時で正議員二〇五名中一三六名の出席で開催された。

今総会はある信徒議員の発言を借りるならば…「二つの陣営」…が例年になりに、鋭く対立した。

冒頭、議事日程承認に於いて、「聖礼典を正しく執行する意思表明に関する件」

の取扱いを巡り「議案として形をなしていないから取り下げるべきだ」という主張が繰り返され、何度も修正案が提案されるなどした

が、修正案は全て少数否決された。

「やうに西へ」開拓伝道決議

西東京

終了。残された時間を教団問安使との質疑、討論に用いた。議事の中でも小林眞教団副議長には問安使としての挨拶の時間が設けられ

たが、なお残された時間も有効に貴重に用いられた。教会が直接、教団の課題を聞き、教会、教区の現状を

【教職】岡村宣(鷹巣)、邑原宗男(江刺)、雲然俊美(秋田)、松村重雄(弘前南)、白

戸清(野辺地)、山口義人(男鹿)、願念望(青森松原)【信徒】鈴木務(秋田高陽)、三上敦子(田名部)、浅沼千春(秋田桜)、半澤清次郎(一関)、松尾亨(青森松原)、大友清子(秋南)、守屋ミヨ子(八郎潟)

【渡邊義彦報】

で「聖礼典を正しく執行する意思表明に関する件」の取扱いを巡り「議案として形をなしていないから取り下げるべきだ」という主張が繰り返され、何度も修正案が提案されるなどした

この議案は、閉会予定まで一時間を切ったタイミングで上程された。「違法な聖餐礼典」未受洗者への配餐「未受洗者への配餐」という違法行為による問題提起の三点を「憤む」という内容であった。総会冒頭の取り下げ主張が蒸し返された後、未受洗者への配餐の是非、聖書の或いは教憲

性愛者をはじめとするセクシュアル・マイノリティ差別をこれ以上繰り返さないために、対話を重ね、具体的な取り組みを提案する件。

可決された主な議案は次の通りである。兵庫教区クリスチャン・センター会計不正流用問題報告に関する件。兵庫教区謝儀保障要綱改正に関する件。兵庫教区機構組織見直しに関する件。教区施設特別資金に関する件。被災者生活支援、

長田センターにおける今後の取り組みに関する件。第35総会期「教団機構検討特設委員会」答申に関する件。

「北海教区アイヌ民族情報センター」の課題の共有と連携献金継続に関する件。建議、敗戦後の日本の教

育の歩み全体を検証し、今日の教会の教会教育課題と役割を明らかにする件、は常置委員会付託となった。

台湾基督長老教会高雄中会張顯爵議長及び、在日大韓基督教教会西部地方会裴明徳副会長の来賓挨拶を受けた。また教団問安使・小林眞副議長の挨拶を受けた。

教区常置委員選挙結果【教職】菅根信彦(神戸)、廣田和浩(尼崎)、佃真人(宝塚)、西澤他喜衛(甲東)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

戸清(野辺地)、山口義人(男鹿)、願念望(青森松原)

【信徒】鈴木務(秋田高陽)、三上敦子(田名部)、浅沼千春(秋田桜)、半澤清次郎(一関)、松尾亨(青森松原)、大友清子(秋南)、守屋ミヨ子(八郎潟)

【渡邊義彦報】

【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

【新報編集部報】

【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

【新報編集部報】

【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

【新報編集部報】

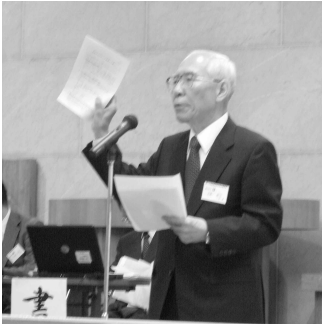
【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

【新報編集部報】

【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

【新報編集部報】

【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)



進め、教区全体で取り組む方針が可決された。この際、推進の責任者の一人大村栄常置委員は、質疑で「信仰告白、教憲教

規に則った開拓伝道を目指す」と答えた。

また、各教会・伝道所が「経常収入の1%を謝恩日献金としてさげること」を目標として努力する」という内容の「教団年金を守るための教区推進案に関する件」も、質問はあっても大きな反対はなく可決された。

常置委員選挙結果(半数改選)

【教職】川村博(調布)、原田謙(更生)、大村栄(阿佐ヶ谷)

【信徒】高津博(大宮前)、平松進(東中野)、宮下重康(玉川)

教団総会議員選挙結果

【教職】吉岡光人(吉祥寺)、若月健悟(国分寺)、大村栄(阿佐ヶ谷)、真壁蔵(相愛)、道家紀一(井草)、原田謙(更生)、河村博(調布)、山畑謙(小金井緑町)、久山庫平(河辺)、岩田昌路(狛江)、吉岡康子(吉祥寺)、山口隆康(東神大)

【信徒】高橋豊(白鷺)、平松進(東中野)、高津博(大宮前)、小中乃美子(永福町)、川原正言(南三鷹)、宮下重康(玉川)、島林樹(吉祥寺)、渡邊豊明(小金井緑町)、折原威男(阿佐ヶ谷)、井田昌之(狛江)、島田弘道(石岡記念、五十嵐昭一(国立)

【新報編集部報】

【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

【新報編集部報】

【教職】菅根信彦(神戸)、佃真人(宝塚)、上内鏡子(神戸イマユ)、白井進(神戸栄光)、小林聖(豊岡)【信徒】森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲南)、津村正敏(明石)、宮本真希子(甲東)、高寺幸子(武庫之荘)、中村哲男(はりま平安、上田律子(御影)

【新報編集部報】

「退任勧告」取消要望決議

兵庫

第62回「合同」後39回兵庫教区定期総会が、五月十八・十九両日、神戸教会を会場に正義員二四名中一五〇名(開会時)が出席し、開催された。

兵庫教区では、震災の關係で、教団総会議員選挙と、教区三役、常置委員の選挙が重なる。林邦夫議長(兵庫松本通)、川上盾副議長(東神戸)、古澤啓太書記(神戸東部)が選出された。

菅根信彦議長は議長報告で宣教の

川上盾副議長、林邦夫議長、古澤啓太書記



川上盾副議長、林邦夫議長、古澤啓太書記

「未受洗者配餐問題は、教団・教会の宣教課題」―教団教師50年の歩みをふまえて―と題し基調講演の時を持ち審議され、第36回教団総

【議案】日本基督教団が、同

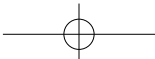
【議案】日本基督教団が、同

【議案】日本基督教団が、同

【議案】日本基督教団が、同

【議案】日本基督教団が、同

【議案】日本基督教団が、同



宣教師からの声

ゴールをめざして

グレイ・恵子

(英国メソジスト教会《MC》からの派遣宣教師)

望をもって天へと召されていきました。

一八八一年主人デイヴィッド・グレイは英国メソジスト教会の教育宣教師として沖縄に派遣され同年私たちは結婚し、私も宣教師として沖縄教区にて働かせて頂きました。二人とも主から頂いた英語教育の賜物を活かし、主人は沖縄キリスト教短期大学にて英語の教師として教鞭に立ち、私は子育てをしながら主人と一緒に教会のCS、バイブルクラス、英会話などを持たせて頂きました。結婚によって宣教師になった私はそのため

引越しの荷物の中から、この家族の写真を見つけ出し今昔を懐かしく思い出しています。これは私たちが三年間働き住んでいた沖縄でのものです。あれから月日は流れ今長女エリザベスはニューヨークでの学びが無事に終え昨年就職のため帰国し、長男ポールは二歳となり只今自動車工学を就学中です。二人一緒に東京に住んでいます。そして、突然ではありましたが、イギリス人である最愛の夫デイヴィッドは三年前走るべき道のりを勇敢に走り終え、彼の愛する日本の地で永遠の命の希

の教育を受ける機会がありませんでした。ただ主の助けを祈りつつ、主人そして教会の皆様を良き同僚者として与えられ、一つ一つ乗り越えさせて頂きました。教育を受けていない自分を卑下したとき、主人は次のように言っていて励ましてくれました。「主があなたを選んだ。その事が最もたいせつなことだよ」

沖縄はみなさんもご存知のように違った歴史そして文化を持っています。栃木に生まれた私ははじめて沖縄に行き、見るもの聞くもの珍しく私自身も外国人と言う思いがしました。当初私たちが通いました首里教会では礼拝で高齢者は沖縄語で証をされ、私のため日本語の通訳者がつき、それを私が主人のため英語に直していました。二人にとって遠く家族を離れて知らない土地で、教会の皆様のご親切やお交わりは私たちのこれからと言う生活の支えになりました。

二三年間で最も感動し、嬉しかったこと、それは首里教会が志真志伝道所設立のため派遣した

一〇名の中に一緒に加わり、最初の礼拝をしたときの事です。設立までに、主人と二人で協力教師として伝道所の牧会に関わる事が出来た事は、大きなチャレンジであり喜びでした。そしてもう一つ大きな出来事は長女エリザベスが拒食症になったことです。この時娘は千葉の高校で寮にいまし

たが久しぶりで会って見ると痩せていました。しかしながら主はこの苦しみを不思議な方法で喜びに変え私たち家族に多くの祝福を与えてくださいました。これはグレイ家に起こった大きな神の奇跡でした。この神との交わりが八年後に来た試験、すなわち突然主人デイヴィッドを失う準備になったと深く確信しています。

二〇〇四年、主人が他界してからもう一年間沖縄で仕事を続け、その後念願だった宣教師としての学びに一年半イギリスへ飛び立ちました。その為に沖縄の超教派のクリスチャンたちが「グレイ恵子を支える会」を結成し支えてくださり、又私の母教会として個人的に多くの友人兄弟姉妹が支え祈ってくださった事は主からの予期しなかった大きな恵でした。主は大きな苦しみと共に大きな祝福を用意してくださっていると確信しております。

これまでの貴重な体験、学びの大集成として今年四月より私の故郷鹿沼の地に戻り、母教会福音伝道教団の鹿沼キリスト教会にて伝道者として働かせて頂くことになりました。残されました日タイエスを見上げつつ共に走っていきましょう。ゴールをめざして！



誕生日を家族で祝う

隠退教師を支える運動 推進活動、30 年に



二〇〇八年四月二日（火）十一時より十五時まで、日本基督教団の会議室で隠退教師を支える運動・第35総会期第三回推進委員会を開催した。

出席者は多田信一（委員長）、井上昌保、大杉弘、奥野力ネコ、瀧川英子、宮澤淳子の委員六名。陪席者として内藤留幸総幹事、高橋豊年金局理事長、櫻井淳子年金局事務室長、黒沢咲子隠退教師を支える運動事務担当者の一〇名であった。

開会礼拝で「ヘブライ人への手紙13章7～8節」による内藤総幹事の説教を伺った。多田委員長、高橋理事長の挨拶、櫻井事務室長の「教団年金の現況報告」と続いて議事に入った。

まず瀧川書記が二〇〇七年度の活動事業報告をして異議なく承認。黒沢事務担当者が、二〇〇七年度「一〇〇円献金」の明細表を提示。参加教会数八六〇教会であったこと、そして献金総額が七五、九〇六、九一五円であったことを説明。また二〇〇七年度の会計決算報告をして、全委員がこれを承認した。

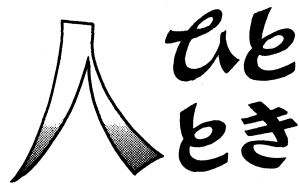
次に瀧川書記は二〇〇八年度の事業計画案について、七月一日（火）二日

（水）に全教区推進委員会を開催すること、今年は隠退教師を支える運動」が教団として推進活動を開始して

から三〇年になるので、七月二日午前中に「三〇年記念感謝礼拝」を行い、午後には委員（常任）と関係者八名による「記念座談会」を行う旨等を説明して承認を得た。

黒沢事務担当者は二〇〇八年度の会計予算について計画額（案）を読み上げた。「一〇〇円献金」の目標額が実績より下回ることにについては如何？との意見もあったが、協議の結果、提示された計画額を賛成多数で可決した。

三〇周年記念に関して大杉委員より、多田、瀧川、黒木秀信の二名（東京五支区推進委員）の五名により「三〇年史」を発行する準備を始めたこと等を説明、これを承認。以上協議の後奥野力ネコ委員の祈禱を以て閉会した。（多田信一報）



久保南海代さん

生かされゆく パッションと喜び



中国・蘇州生まれ。画家。柿ノ木坂教会員。

この人の、この体のどこに、これだけの力が秘められているのだろう、と思わされる。それほど大柄ではない。むしろ小柄なほうだ、と思う。しかし、久保さんが二〇年にわたり制作に取り組んできた壁画群は、北海道から九州、アイスランド、オーストラリアなどに描かれ、総計三千メートルに達した。とにかく作品が大きい。壁画だけでなく、博覧会パビリオンの高さ四六メートルにも及ぶデント、瀬戸大橋開通の祝砲に模した高さ十五メートル、幅十一メートルの祝い旗など、手がけるものが大きいのだ。

もともと芸大では日本画を専攻。描くことが好きで進んだ道だったが、在学中、既に画家に

なる気持ちが芽えていた。教授陣からの評価も芳しくなかったのだが、むしろ師に拘らないことがのちの自由な作品につながったのだろう、と久保さん。

描くことは結婚を機に中断してしまっただが、しばらくのちに再開。制作に大きな転機をもたらしたのは、夫、勝彦さんの転勤に伴う、四年ほどのニューヨーク住まいである。八〇年代前半、晩年のA・ウォーホルらが活躍していた。南海代さんの日本画の枠は全く取り払われてしまった。壁画など大作の取組みもこのころ始まってゆく。

小さい頃から負けん気が強かった。右の頬を打たれたら左の

四月十四日から三日まで退任宣教師への感謝ツアーが実施された。一行十七名は明年のプロテスタント伝道開始一五〇年に先立つて、日本に福音の種を播くべく米

国教会から派遣され来日した奉仕に対して改めてお礼を言うため、教団を代表して渡米した。

まずはカリフォルニア州クレアモントに赴き、四〇名の退任宣教師と再会と出会いを与えられ早速感謝のひとつを持った。

その後A・B二つのグループに分かれて各々の集を意義深く持った。詳細はやがて新報紙上でも

愛の負債への返済

間かかって移動できる現代と違って幾多の困難をも越えて大変な時間をかけて来日した。その目に見える苦労に対する感覚というか想像力をいやがうえでも掻立てられる。宣教師の奉仕はあたりまえの

報告することとするが、幾つか感想を述べさせていたたく。

多々の犠牲があり、祈りがあり、何よりも愛があった。そしてまた、犠牲を犠牲とも思わぬ宣教師の信仰、そして祈りを以て支え切った教会の存在がある。教会だけでなくキリスト教主義学校、社会福祉施設を設立し運営しつづけてきた米国のキリスト教会に生きた福音の力を尽きぬ感謝の思いとともに、圧倒されるものとして、感じた。

教団は多くの愛の負債を有する。伝道により返済せねばならぬ。（教団総会議長 山北宣久）